

1 日 時 平成25年3月4日（月）午後2時～4時

2 場 所 生涯学習センター 1階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

川内 清文、小林 清次郎、坂本 智子、澤井 幸子、設楽 厚子、
芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

（2）職員4名

町田文化スポーツ部次長（兼）生涯学習スポーツ課長
茂木生涯学習推進担当副主幹、市ノ川企画係長、大木

4 開会

5 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

（2）報告事項

都市社連協第2回理事会の報告

2月21日（木）稲城市開催。内容について、参加した芝会長より報告。

- 都市社連協の総会に向けての審議について進めていた。統一テーマ「我が町意識を次代に育む社会教育」で来年度は進めていきたいとのことで、理事会では承認された。その内容としては、「現在、各市町では新たに引っ越してくる住民が増え、自分が住んでいる場所が故郷ではなくなってきている。けれど、その裏では子ども達の故郷になっている。今大人たちがわが町を意識しないと次世代に繋げていく基盤が弱くなってしまう。子ども達が将来わが町を故郷と思えるような、また大人たちが自分の住んでいる場所を「わが町」と呼べるような町を作っていきたい。そして、そこに関わる社会教育には様々な可能性が潜んでいる。わが町意識を次代に育む社会教育は街づくり、地域教育、学校支援、子育てなど様々な切り口からアプローチが可能であり、地域によって事情の異なる市町における統一的なテーマとしてふさわしいと考える。」という意見を出されて、このテーマの案が出された。そしてサブテーマを付けなかったのは、各ブロックでサブテーマを以って研修会をやっていたらありがたいとのことだった。

定期総会議案書については、その通り承認され進んでいる。もう一つ、理事会で諮られたので、平成25年度交流大会について、羽村市生涯学習センターゆとろぎで、12月7日に開催される。その交流大会の内容について、毎年の形と変えてい

きたいという提案だった。ブロック研修会の報告後に、いつもは講演会だったが、交流会を持たせていただきたいということだった。そのテーマは平成26年度都市社連協の統一テーマを検討し、交流会で色々なご意見をいただき参考にしていきたい。その後、お食事と飲み物で情報交換と親睦を深めていくということが提案され、理事会では承認された。

6 審議事項

(1) 前回の議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録(案)は、市民に公開することが了承された。今回の議事録については、最後の審議会であり、委員が集まって確認する機会がないため、事務局の責任校正とすることが了承された。

(2) 答申案について

副会長より説明。小委員会で再検討した答申案を事務局が読み上げ、委員の意見をまとめ、追記することになった。

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ■ : 委員 ➡ : 事務局

- 小委員を開催し、前回審議会であった皆様のご意見を踏まえたうえで、この形委にさせていただいた。また、これを皆様にお送りした後、訂正か所が何か所か出てきたので、1ページずつ読み上げて確認をしていきたいと思う。

(1ページ 読み上げ)

- 特に何もなければ了承いただいたというところでよろしいか。

(一同 了承)

(2～3ページ 読み上げ)

- (1) ②3行目「市民協議会のような場の設置」に修正、(2) ①「市内における」は削除、②「公共施設など使用基準の」を「公共施設使用基準などの」に修正してはどうか。

(一同 了承)

- 【補足】という文言で良いか引っかかるので、適切なものがあれば伺いたい。

- 一般的にあまり使わない。一行空ける等して、無くしても良いと思う。

- より詳しく説明しているのに、【細則】はいかがか。
- ➔ お話しがあったように、一行空けても良いと思う。
- さらに詳しくという意味で【補足】としたが、少しニュアンスが違うような気がしてきた。
- 一行空けて※はどうか。
- ここに補足はいらないと思う。もし残すのであれば、文字を小さくしてはどうか。常識の範囲として切ってしまうのも良いと思う。
- ➔ (2) ①について、公共施設で市民の皆さんに開放していない施設はない。市民の皆さんに開放している施設を公共施設という。③の公会堂・集会所と広く考えるのであれば、①の上の方に持って行った方が良いかもしれない。【補足】の中で、「日常的に使用頻度が低く、常時空室のままの」という補足をしていただいているが、施設を運営する立場からすると、利用できるものが公共施設である。
- 全体的に【補足】という項目があり、具体例を挙げている。今まで目が届いていたか促す意味合いも含めて、頭に入れて検討してほしいという具体的な付け足しである。この文章は残してもらいたい。(2) ①の項目を削除して③の項目を①にし、残りの番号を順送りにすると整合性がとれるのではないか。
- (2) ①の項目は、町内会の公会堂など、色々な施設を含んでいるのでは。
- 公共施設には使用条件がいろいろあって使用できない場面を見て書かれた文言だ。
- 教育センターの例などを見てそう思ったのでは。再検討といった文言に変えてはどうか。
- それは補足の中にうたわれてはいる。
- ③が生きてくればいいのか。
- ➔ 公共施設とは別に、公の施設という言葉がある。市役所の会議室のように公が建てたが、一般市民に開放されていない施設は公の施設であって、公共施設とは呼ばない。教育センターの例が出た。中央文化センターの分館という位置づけで、公共施設として使用できる部分があるが、教育の行政目的のために建てられた公の施設である。同じように見えるが、広く一般に利用してもらうために建てられたものが公共施設、特定の行政目的で使うものは公の施設である。公の施設の中にも、公共施設として見直せるか再検討するというのであれば、提言として成立する。
- 公に供する施設といった言葉にすれば、解釈に幅を持たせられるのではないか。
- 公共施設と公の施設とを混同して使っているところはあるか。
- ➔ それはない。
- 公会堂を広く一般に開放することは可能だろうか。
- 自治会以外の人利用したい場合は、使用料をいただいて使ってもらっている。

- 教育センターは使用するための基準がある。それを満たせば借りられる。
- ①は削除、③を①に、④以降の番号を繰り上げるということで良いか。
(一同 了承)

- 補足の体裁はどうするか。
- ➔ 字体を変えることでも、本文と意味が違うことが分かる。
- 文字の大きさは変えず、字体を変更したら良い。
- 【補足】を削って、1行空ければ良い。
- この【補足】は、本文に入れた方が伝わるのではないか。
- 最初はそうしようとしたが、1つの項目が長くなりすぎるため、項目はできるだけ簡潔な表現でまとめ、分かりやすくした。
- 【補足】の文字は削り、1行空けて、字の大きさは変えず、字体を別のものにする。
- 【補足】の文章を2文字下げているのは意味があるのか。
- 本文に対して補足しているということを表している。
- 本文の方を太字に、字体を変えて強調してはどうか。補足は明朝体のまま、字の大きさは変えずに続けると分かりやすい。
- 先に進まなくてはならないので、体裁については後で決める。

(4ページ 読み上げ)

- 案をみなさんに送って、返していただいた意見により④を追加している。
- NPO法人はこれからもたくさんでくるので、協働を進める必要があると考えた。
- 人材育成の場面なので、必要ないのでは。
- 必要なければ、削除して構わない。

(5・6ページ 読み上げ)

- (1) ①で講座の種類を羅列しているが、3～4個にしておいた方が良い。また、“等”という表記を使っているが、前のページで“など”を使っているので、表記を統一した方が良い。
- (1) ⑧の“その他”も消して、“など”に含めて良いと思う。

(7・8ページ 読み上げ)

- 自主グループの会議に出たところ、ホームページがとても分かりにくいという意

見が出たため、見直してもらいたいという希望を込めて“分かりやすい”ホームページの作成という言葉を入れた。

- “CATV”を“ケーブルテレビ”に言い換えた方が良い。

(一同 了承)

(9 ページ 読み上げ)

- 2行目、“どれだけ市民に”を“どのように市民に”と言い換え、“確認したうえで見直して、”を“確認し、見直すべきは見直し、”としてはどうか。

補足の文章で“学習の活かし方”を“学習成果の活かし方”に。下から8行目、再設立するような“熱意”を“意識”に。単純な“学習場所”を“学習の場”に。次の活動に“つなげる”を“発展させる”に。最終行、市民大学を“設立するという取り組み”を“設立するという積極的な取り組み”にしてはどうか。

- 補足1行目の“単なる押しつけ講座ではなく”をカットした方が良い。現在実施しているほかの講座が押しつけというニュアンスととられる。

- カットして良いと思うが、もともとの文章は、既成概念にとらわれて機械的につくられたような講座ではなく、手作りで市民の意識を組み入れたような講座をやってほしいという願いを込めて書いた。

- 訂正の意見をすべて採り入れて良いか。

(一同 了承)

(10・11 ページ 読み上げ)

- 答申自体が成熟した市民、高齢者、退職した方を対象にしている気がして仕方ない。生涯学習は幼児からという土台があることを書きたかった。文脈の中に入れるところがなかったので、段落を増やした。不要であれば削って構わない。

11 ページに「生涯学習推進都市」の宣言が歌われているが、平成21年度の答申では「生涯学習宣言都市府中」という形で載っていた。それとはどう違うか。

- 山梨県の大会に参加したときに「生涯学習宣言県」を打ち出していたことを知り、市の単位でやろうという発想で「宣言都市府中」と載せた。「推進都市」も、考え方としては21年度のときと同じである。

- 「はじめに」で自己の充実や生活の向上などを挙げて生涯学習とは何かを語っているので、ここで年代に関する文面を載せなくて良い気がする。最後の指定管理者の文面も、不要だと思う。

- 一般市民も目にすることと思うが、教育長に提出して市に考えてもらうための答申だ。外してよいだろうか。

■ 年代の文面についてはしつこいかもしれないが、入れた方が良くと思う。また、これからのことは載せるべきだと思う。指定管理者制度になってからの講座受講料が高くなっている気がする。例えば、ヨガの教室の受講料は今までは2時間で500～600円程度だったのが、1時間で700円になっている。こうしたことに意見を言える場があると良い。

➡ 前段で指定管理者制度について全く触れていないので、唐突な印象を受ける。まともに載せるのであれば、前の章のどこかに載せる必要がある。

■ 諮問内容は市民との協働であるので、載せる必要はないのではないか。

■ 10ページ3行目“次の段階への向上を求め、社会的な評価につながれば”を“次の段階へ向上を求め、その成果が社会的な評価につながれば”に付け足す。その下“学ぶこと、教えることは人生を豊かにし”を“学ぶこと、教えること、生涯にわたる「学び返し」は人生を豊かにし”に。3行下、“情報提供の方法を考えなければ”を“情報提供の方法など考えなければ”にして、情報提供の問題だけではないことを示したい。4つめの段落“どちらも主体的に判断する意識で”を“どちらも主体的に取り組む意識で”に。その3行下“市民自身も社会に貢献すること、学び、成長する場にいること”を“市民自身も社会に貢献し、学び、成長する場にいること”に。11ページ、“本市の積極的な生涯学習意識を”を“本市の積極的な生涯学習の方針を”に置き換えてはどうか。

■ 以上の文言を置き換え、追加の提案があったアンダーバーのついた文言は削除するということが良いか。

(一同 了承)

■ 補足の字体をどうするか。

(4種類の見本を配布)

➡ 最初が補足を斜体にしたもの。2番目が補足の字の大きさを小さくしたもの。3番目が本文をゴシック、補足を明朝体にしたもの。4番目が本文を明朝体、補足をゴシックにしたもの。

■ 本文を太字の明朝、補足を通常の明朝にしたものはないか。

➡ これから用意する。

■ 4ページの補足で、日本語で注記して、誰でも言葉の意味を理解できるようにすることが書かれている。それに従って、2ページの公共スペース、9ページの市民ニーズという言葉も置き換えてはどうか。

■ 2ページの公共スペースは、公共施設と置き換えて良いか。

- ➡ 公の施設の中に使える場所があるのではないかという趣旨から考えると、公共施設への置き換えは正確ではない。
- 公共的な場としてはどうか。
- 施設や建物よりも広げて解釈できるようにスペースという言葉を使った。
- 横文字をすべて日本語に置き換えるということではなく、言った人にしか分からない言葉遣いを避けられれば良い。ニーズという言葉は広く知られているので、無理に置き換えなくて良い。
- 難しいが、置き換えることで明確になる言葉もある。
- ニーズは要望、要請、必要性和置き換えられる。
- ➡ 講座は要請だけに応じて実施している訳ではない。
- ニーズとしておいた方が、幅広い意味で捉えられるので、このままで良いのでは。
- ファシリテーターやサポーターは、一般市民にはそのままでは分からない言葉。ニーズは、それとは違う言葉なので、置き換える必要はないと思う。
- 公共スペースについては、そのままでは公共施設という意味になるので、置き換えた方が良い。
- ➡ スペースが施設という意味で捉えられるのであれば、空間など、別の言葉に置き換えては。「公共施設」という言葉にした場合、稼働率が低い施設の稼働率を上げるという提言として受け止められる。
- 「日常的に使用頻度の低い公共的な場所」としておけば、限定的にどの建物、管理者のものかということを超えて、広い解釈ができる。建物であれ公園であれ、含めることができる。
- 2ページについてはそうさせていただく。ニーズについてはそのまま使わせていただく。それで良いか。

(一同 了承)

- ➡ 本文を太字の明朝、補足を通常明朝にした見本を用意した。
- どの体裁にするか。本文と補足の字体のバランスを見ていただきたい。

(多数意見で、3番目が本文をゴシック、補足を明朝体にした体裁が採用された。)

- 最後にテーマを決定したい。府中市からいただいている諮問は、府中市の生涯学習における市民と行政との協働についてである。検討してきた内容で答申を返すことになるが、表に掲げるテーマについて決定したい。案を出していただきありがとうございます。順番に読み上げる。

- ・生涯学習の推進を具体化するために
 - ・新たな生涯学習の推進のために発想の転換を
 - ・「協働学習」～手をつないで地域社会へ
 - ・「協働学習」、改編「市民大学」を！～手をつなぎ地域社会へ
 - ・新たな協働を目指し、生涯学習の積極的行動を
 - ・行政と市民の協働により新たな生涯学習を
 - ～学び合い、教え合う「学び返し」の具体的な取組みを
- このとおりでも、組合せでも良い。

■ “行政と市民の協働により新たな生涯学習を”の“を”を取って“行政と市民の協働による新たな生涯学習”が良いのでは。

■ 「協働学習」を含むテーマについて補足したい。2年間の検討の中で協働に反対する意見はなかったので、協働は生涯学習を推進するために役立つものだと考え、「協働学習」という言葉をつくった。総務省の研究会の中に、「ICTを活用した協働教育推進のための研究会」があり、ここでも「協働教育」という言葉を使っている。「市民大学」という言葉は答申にも入っており、ふちゅうカレッジを見直す機会として捉えるためにテーマに入れた。市民と行政が一緒になって輪をつくって地域社会に「学び返し」するという意味を込めた。

■ “生涯学習の推進を具体化するために”を提案した。審議会で検討してきたことをまとめる方向で考え、具体化するために協働が含まれるということをシンプルに書いた。

■ “新たな生涯学習の推進のために発想の転換を”などを提案した。固定観念を捨てて新しい発想で何かをやるべきだと考え、規則や施設の使用状況を見直すだとか、今までのことにとらわれて同じことを続けるのではなく、リセットしたうえで新しい気持ちで取り組むのが良いと考えた。

“新たな協働を目指し、生涯学習の積極的行動を”については、諮問に含まれる協働とは何かを考えたいうえで、推進するための施策をつくってもらいたいという意味で提案した。

最後の2つについては、協働によって新たな生涯学習の体系をつくってほしいということと、市が提唱している「学び返し」というキーワードを使って、具体的には何をしてきたか再検証して、あらたな発想で具体的な行動・活動を盛り込んだ行政をしてほしいという意味を込めて提案した。

■ 「協働学習」という言葉は、行政用語のように思える。答申が一般の目に触れたときに、分かりにくいのではないか。

- 行政と市民の協働では、市民が先に来るのでは。
- 一番下のテーマが良い。「学び返し」が入っていて、具体的で良い。
- タイトルなので、それを見て中身を大体想像できるものが良い。
- “学び合い教え合う「学び返し」”を主題にして、“市民と行政の新たな協働を目指して”のような言葉を副題にしてはどうか。主題を簡潔にした方が、キャッチフレーズとして浸透しやすいと思う。
- 「協働」と「学び返し」のキーワードが含まれていると良い。
- 「協働」単体だと、意味が分かりにくい。“市民と行政の”がついて、分かりやすくなる。また、府中市のキーワードは「学び返し」だと思う。協働については他市の計画でも出てくると思うが、「学び返し」は独自性がある。主題を読んで「これは何だろう？」と思ったところで副題を読むと、意味が分かるという構成だと思う。
- それでは、“学び合い教え合う「学び返し」～市民と行政の新たな協働を目指して”で決定して良いか。

(一同 了承)

- これで答申の表に掲げるテーマが決定した。諮問を受けた答申の内容も決まったので、審議事項を終了する。
- ➡ 審議会委員の皆様には2年間ご審議いただき、ありがとうございました。公募委員の方については2年間で満了ということになる。改めてお礼申しあげる。来年度も引き続き委嘱する委員の方には改めてご案内をお送りしますので、よろしく願いしたい。
- 皆様、2年間にわたりありがとうございました。また、これからも地域でお世話になることがあるので、よろしく願いしたい。皆様のおかげで無事に答申が完成した。清書した答申は事務局から皆さんに送付する予定なので、ご確認いただきたい。
- ➡ 答申は3月11日正副会長が教育長にご提出いただく予定である。

以上